

第7号

ペインティング・ジャーナル

かわら版



塗料の役割

塗料には物を保護する役割、美観を与える役割、特殊機能を付与する役割があります。

保護

物は、日光（紫外線）や風雨（特に酸性雨）の影響で徐々に劣化していき、鉄は錆び、木は腐ってスカスカになります。耐久性の良いコンクリートも劣化して表面が粉っぽくなり、アルカリ分が抜けて強度が低下してきます。用途に適した塗料を塗装することで、日光や風雨から物を保護することができ、素材を長持ちさせることができます。



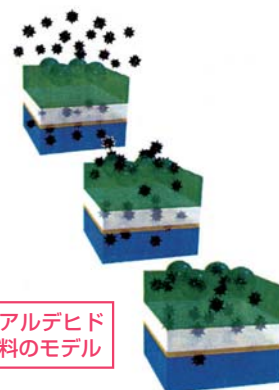
美観

塗装は、無機質な素材に彩りを与えたり、色あせた素材を鮮やかな色に再生することができます。また、色のコーディネートをすることができます。屋根と外壁の配色をコーディネートしてイメージを変えたり、室内壁の配色をコーディネートして暖かい雰囲気にしたり、リラックス効果を演出することができます。



特殊機能の付与

塗装により、物の表面に機能を付与して価値を高めることができます。室内壁に塗装することによってシックハウス症候群の原因物質であるホルムアルデヒドを吸着、除去し、室内空間を快適にする塗料や、抗菌性を付与する抗菌塗料、カビの発生を抑制する防カビ塗料、蛍光塗料や蓄光塗料（夜行塗料）などがある。特殊用途では、電磁波シールド塗料や帯電防止塗料、遮熱塗料などがあります。



ホルムアルデヒド
吸着塗料のモデル

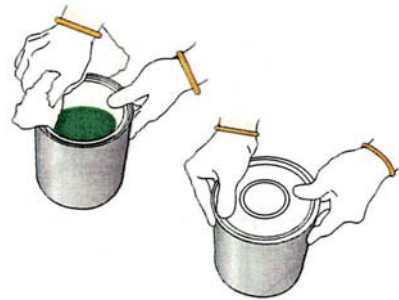
塗料の保存と破棄について

■塗料の保存について

〈使い終わったら…〉

塗料は使い切るのがベストだが、残った場合、保存することも可能。保存の仕方は容器の縁についた塗料をきれいに取り除いた後でフタをきっちりしめておきます。

縁についた塗料を取り除かないと次に使う時にフタが開けにくくなるだけでなく、密閉しにくくなります。フタをきっちりしめないと空気が入り、塗料に膜が出来たり固まってしまう恐れがあります。



〈保存場所と環境〉



- ・直射日光が当たる場所
- ・高温になる場所
- ・湿度が高い場所
- ・火気のある場所
- ・冬場凍結する危険性がある場所

注意

子供やペット等の手が届かない場所に保存し、間違っても口にしないように注意してください。

■塗料及び容器の破棄について

〈塗料の捨て方〉

塗料は液体の状態では破棄することができない

*塗料はなるべく使い切ってから破棄する
少量残ってしまった場合などやむを得ず塗料を捨てる場合は…

塗料をできるだけかき出し、新聞紙などに塗り広げて乾燥させてから、〈一般ゴミ〉として処分してください。

〈容器(金属缶)の捨て方〉

容器の中の塗料を使い切って(または上記のとおり塗料を破棄)できるだけ容器の中に塗料が残らないようにかき出します。(容器の内側についた塗料が底に溜まらない程度)。

その後、火気のない屋外で容器内側についた塗料をよく乾燥させてから〈金属ゴミ〉として処分してください。

*地域によっては一斗缶(14L缶以上)は粗大ゴミに分類されることがあり、地域のゴミの分別をよくご確認ください。

*一部、プラスチック容器に入った製品があります。プラスチック容器の場合は〈プラスチックゴミ〉として処分してください。

〈洗浄した水やうすめ液の捨て方〉

ハケなどの塗装用具は、使用後すぐに布や新聞紙でできるだけ塗料を拭き取り、洗浄してください。

水性の場合

ハケなどを洗浄した水は、洗濯排水などの生活排水と同じ扱いですので、下水道に流しても問題ない。極力多量の水で洗浄してください。下水道が整備されていない場合も生活排水に準じた処理を行なってください。

油性の場合

ハケなどを洗浄したうすめ液は、その都度処理せずに、きっちりフタの閉まる缶やビンに入れてくり返し使用することをおすすめします。処分する場合には火気のない風通しのよい屋外で布にしみ込ませて乾燥してからポリ袋に入れて、一般ゴミとして処分してください。

*洗浄した水やうすめ液は河川や湖沼に流さないでください。

■使いかけのエアゾール製品の保存と捨て方

〈保存前の注意〉

●詰まりを防ぐために

容器を逆さにして2秒程度吹き、ノズルに付いた塗料を拭き取り、キャップをしてください。正立の状態でご保存してください。



〈保存場所の注意〉

●爆発やガス漏れの危険が伴う場所

- 火気の近く／●暖房器具の周辺／●車内／
- 直射日光の当たる場所等40℃以上になる場所
- 湿っぽい場所／●結露が生じやすい場所

〈捨てる際の注意〉

必ず中身を使い切り、完全にガスを抜いてから捨てる。中身が残っている場合は、新聞紙などに塗り広げて使い切り、乾かしてください。

ガス抜きキャップの場合、製品の説明に従ってガスを抜くこと。



*危険なのでガスを抜く際、容器に穴をあけないよう。また爆発の危険があり、火中には絶対投じないでください。

ガスを抜いた後、容器は〈金属ゴミ〉、キャップは〈プラスチックゴミ〉として処分してください。